

年次報告書2013



海外投資に保証を ■ 事業機会を確実に

概観

2013年度の概観

2013年度、加盟途上国でのプロジェクトに対してMIGAが発行した投資保証は総額28億ドルに達しました。加えて、MIGAが管理する信託基金の下で、350万ドルの投資保証が発行されました。今年、MIGAの新規保証総額が3年連続で最高記録を更新し、MIGAの4つの戦略的重点分野のうち、少なくとも1つの分野に取り組んでいるものが全体の82%を占めました。本年度末のMIGAの総保証残高は108億ドルに上り、6年連続で増大しました。

今年はまだ、MIGAの支援を受けた投資が、取引の高い革新性と重要性という点でかつてなく多くの業界賞を受賞したことも特筆に値します。

さらに、債務不履行に対する保証の範囲を広げ、国有企業も含めることに関しては、理事会から承認を取り付けました。

本年度中、保証金の支払いは行われませんでした。

投資保証の発行額	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	1990~2013年度 合計
被援助プロジェクト数 ¹	26	19	38	50	30 ¹	727
新規プロジェクト ²	20	16	35	38	26	-
継続の被支援プロジェクト ³	6	3	3	12	4	-
保証契約発行数	30	28	50	66	47	1143
新規保証額、合計（十億ドル） ⁴	1.4	1.5	2.1	2.7	2.8	30.0
総保証残高（十億ドル） ⁴	7.3	7.7	9.1	10.3	10.8	-
純保証残高（再保険差し引き後） （十億ドル） ⁵	4.0	4.3	5.2	6.3	6.4	-

- さらに2件のプロジェクトが、MIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じて支援を受けた。
- 2013年度に初めてMIGA支援を受けたプロジェクト（拡大を含む）。
- 過年度および2013年度にMIGA支援を受けたプロジェクト。
- 協調引受プログラム（CUP）を通じた調達額を含む。
- 総保証残高は最大の債務総額を示す。純保証残高は総保証残高から再保険を差し引いたもの。

業務の概観

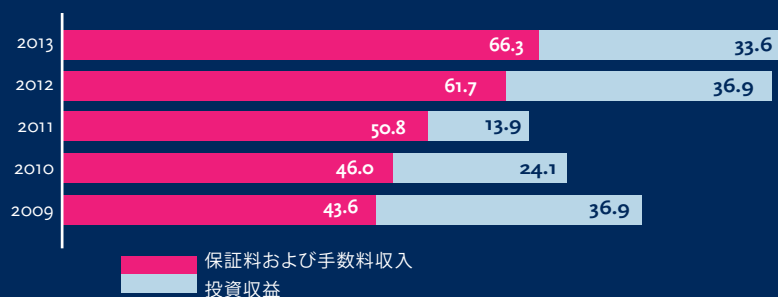
2013年度にMIGAが保証を行ったプロジェクトの内訳

	被援助 プロジェクト数	被援助 プロジェクト 全体に占める 割合 (%)	保証発行額 (百万ドル)	プロジェクト総額 (ドル)に占める 割合 (%)
重点分野¹				
IDA融資適格国 ²	21	70	2047.3	74
「南・南」投資 ^{3,4}	7	23	357.0	12
紛争の影響下にある国々	7	23	1150.3	41
複合プロジェクト ⁵	11	37	1924.4	69
地域				
アジア・大洋州	4	13	492.3	18
ヨーロッパ・中央アジア	6	20	537.1	19
ラテンアメリカ・カリブ海	3	10	67.1	3
中東・北アフリカ ⁶	3	10	172.9	6
サブサハラ・アフリカ	14	46	1,511.6	54
セクター				
農産物ビジネス・製造・サービス ⁶	14	47	385.0	14
金融	5	17	471.6	17
インフラ	9	30	1,272.3	46
石油・ガス・鉱業	2	6	652.1	23
合計	30		2,780.7	

- 複数の重点分野にまたがるプロジェクトもある。
- 世界で最も貧しい国々を指す。
- MIGA加盟途上国(カテゴリー2)から別のMIGA加盟途上国への投資を指す。
- これらの数値は、途上国の投資家が関わるプロジェクトの合計を示す。
- インフラ、資源採掘産業、複雑な資金調達手段などの複合プロジェクト。
- 総額350万ドルのプロジェクト2件はMIGAが管理するヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じた支援も受けている。

本年度のMIGAの業務利益は、前年度の1,780万ドルを上回る1,910万ドルでした(詳細はMD&A参照)。

受取保証料、手数料、投資収益(百万ドル)



世界銀行グループの2013年度の

概観



世界銀行グループは、世界中の途上国への財政援助や技術支援の主な供給源となっています。世銀グループの各機関は、互いに協力し、それぞれの活動を補完し合いながら、極度の貧困を撲滅し、繁栄の果実を全員で分かち合うという共通の目標を目指しています。世銀グループは、途上国の人々の利益となるよう、農業、貿易、金融、保健、貧困削減、教育、インフラ、ガバナンス、気候変動などの分野で知識の共有やプロジェクトへの支援を行っています。

2013年度に世銀グループは526億ドルの援助を約束しました。

IDAとIBRDで構成される世界銀行は、加盟国に対し、315億ドルの融資および無償資金（グラント）を承認しました。このうち、世界の最貧国を支援するIDAの承認額は163億ドルに達しました。

IFCは、途上国の民間セクター開発向けに183億ドルの融資を承認したほか、65億ドルの追加資金を誘引しました。また、この合計のほぼ半分はIDA融資適格国に向けられました。

MIGAは、途上国への投資を支援するため28億ドルの保険を引き受けました。また合計の約4分の3がIDA融資適格国に向けられました。本年度は、サントメプリンシペとコモロの2か国がMIGAに新たに加盟しました。

世銀グループ間の協力

世銀グループの各機関による共同プロジェクトや共同プログラムは、途上国における金融市場の拡大、投資家や民間金融機関による投融资の保証引受、よりよい投資環境を整備するための助言サービスの提供を通じて、持続可能な開発を促進することに重点を置いています。世界

銀行、IFC、MIGAは、高い革新性と迅速な対応力をもって、プロジェクトの資金をクライアントにいち早く供出できるよう尽力しています。本報告書には、そうした例が数多く盛り込まれています。

世界銀行グループは以下の密接に関連し合った5つの機関で構成されています。

国際復興開発銀行（IBRD）は、中所得国および信用力のある低所得国の政府に対し融資を行っています。

国際開発協会（IDA）は、最貧困国の政府に対して無利子の貸付（すなわち融資）とグラントを提供しています。

国際金融公社（IFC）は、途上国への民間セクター投資を促進するために融資、出資、助言サービスを提供しています。

多数国間投資保証機関（MIGA）は、途上国への対外直接投資（FDI）を促進するために政治的リスクや非商業的リスクから生じた損失に対する投資保証を提供しています。

国際投資紛争解決センター（ICSID）は、国際的な投資紛争の調停ならびに仲裁の場を提供しています。

リーダーの視点

ジム・ヨン・キム世界銀行グループ総裁からのメッセージ

我々は今、歴史上またとない好機に恵まれています。途上国が、過去数十年にわたる開発の成果と、明るい経済的見通しという2つの要素により、一世代で極度の貧困をなくすチャンスを得ているのです。この機会を逸してはなりません。



今年、世界銀行グループは、我々自身と開発コミュニティのパートナーに対して、2つの具体的かつ測定可能な目標を課しました。一つ目は、1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を2030年までに3%まで削減することで極度の貧困を事実上なくすこと、二つ目は、各途上国で所得の下位40%の人々の所得を引き上げることによって繁栄の共有を促進することです。

このような野心的な目標は、そう簡単に達成されるものではありません。2008年に始まった世界金融危機から5年近くが経ちましたが、世界経済の回復は依然として脆弱です。先進国は高い失業率と低成長に苦しみ、途上国では成長率が危機前の水準を下回っています。さらに、目標を達成しようとすればする程、貧困との闘いはますます困難になっていくでしょう。貧困状態に取り残された人々に到達することは、非常に難しいからです。

また、別の新たな問題が貧困削減への道のりを脅かすこともあるでしょう。紛争や政治不安は貧困を増大させ、開発に対する長期的な妨げとなるなど、大きなリスクを

はらんでいます。さらに、地球温暖化によって干ばつが広がり、影響を受ける地域が拡大し、極端な気象現象の発生頻度が高まり、人命や経済資源が予測不能な規模で奪われる可能性もあります。

それでも、目標達成は手の届くところにあると、私は今も楽観視しています。目標を達成するには、世界銀行が、188の加盟国やその他のパートナーと体系的かつ徹底的に協力する必要があります。

各国政府は、特に現状を踏まえると、開発援助だけに頼って市民への公約を果たすことはできないと我々は指摘したことがあります。民間セクターは、自力で、あるいは官民パートナーシップを通して政府と連携することで、多大な役割を担うことができます。そしてその際、MIGAは、経済発展や貧困削減を助け、投資を最も必要としている場所で人々の生活向上を図るための対外直接投資の呼び水となるという重大な役割を果たしています。

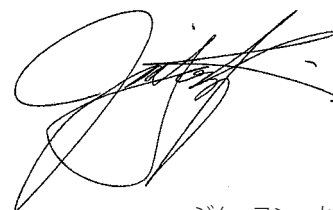
MIGAの本年度の政治的リスクに対する保証額は過去最高の28億ドルに達し、様々なセクターと地域におよぶ投資の下支えとなりました。そのうちの74%は、IDA融資適格国に向けられました。また、54%はサブサハラ・アフリカでの民間セクター開発を、さらに41%は紛争の影響下にある脆弱国での画期的なプロジェクトを支援しました。本報告書には、こうしたMIGAの支援が開発作業に大きな影響を与え、しかもMIGAには外部と世銀グループ内部の両方で効果的なパートナーシップを形成する能力があることが示されています。

本年度のMIGAのプロジェクトには、世銀グループの目的達成のための一段と強化された協調的取り組みを強調したものがいくつかあります。この協調的取り組みの結果をみると、創意溢れる総括的な解決策を各国や他のパートナーに見出してもらうためには、世銀グループがいかに協力すれば膨大な専門知識と資源を活用することができるかが分かります。

コートジボワールでの変革的なプロジェクトに対するMIGAの支援は特筆に値します。今年IFCとIDAと共に支援したAzito地熱発電所はその一例で、同国の発電量の増強に役立ちました。もう一つは、IDAと共にオフショア石油・ガス施設の建設と運営を支援したことです。これにより、同国のエネルギー・コストが低減され、エネルギー輸入に伴う外貨準備の利用を抑えることができるでしょ

う。これらの画期的なプロジェクトは、2011年の内戦終焉後に形成された初の官民パートナーシップの下でMIGAが昨年支援したアビジャンでのアンリ・コナン・ベディエ有料橋梁プロジェクトを補完しました。こうした投資に対するMIGAの支援だけをとっても、紛争の影響下にある国にしては相当額の20億ドル余りの対外直接投資を同国にもたらしました。

今年、MIGAが収めた実績は、2030年までに極度の貧困を撲滅し、繁栄を全員で分かち合うという世銀グループの目標の達成に力強く貢献しました。私は特に、MIGAの長官としての任期を最近満了された小林いずみ氏に感謝の意を表します。同氏の独創的で精力的なリーダーシップのおかげで、さらに幹部と職員のプロとしての精神と意気込みがあいまって、MIGAは異例の結果を出すことができました。この力強いモメンタムを引き続き保つためにも、今後、後任の本田桂子氏と業務を共にしますことを心待ちにしております。



ジム・ヨン・キム
2013年6月30日

MIGAの

総務会および理事会

加盟国179か国を代表する総務会と理事会がMIGAのプログラムや活動を指導しています。各加盟国はそれぞれ総務1名と総務代理1名を任命します。MIGAの権能は総務会に委ねられ、さらに総務会はその権能のほとんどを25名で構成される理事会に託しています。

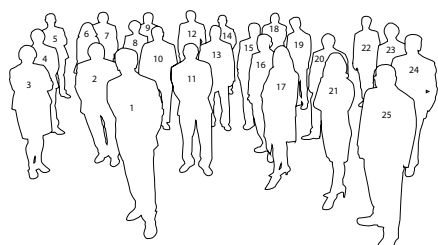
議決権数は、各理事が代表する国の出資比率に応じて加重されます。理事は米ワシントンDCにある世銀グループ本部で定期的に会合を開き、投資プロジェクトの審査と決定、ならびに全般的な運営方針の監督に当たります。

各理事はまた以下のいずれか1つ以上の委員も務めています。

- 監査委員会

- 予算委員会
- 開発効果委員会
- ガバナンス・運営委員会
- 人事委員会

これらの常任委員会は、MIGAの方針や手続きについての深部にわたる検証を行うことにより、理事会が監視責任を全うする際に役立っています。



2013年6月30日現在のMIGAの理事会

1: Merza Hasan; 2: Agapito Mendes Dias; 3: Satu Santala; 4: Roberto B. Tan; 5: John Whitehead; 6: Marie-Lucie Morin; 7: Shaolin Yang; 8: Gwen Hines; 9: Vadim Grishin; 10: Mukesh N. Prasad; 11: Mansur Muhtar; 12: Piero Cipollone; 13: Omar Bougara; 14: Ibrahim M. Alturki (代理); 15: Gino Alzetta; 16: 鈴木 英明; 17: Ingrid-Gabriela Hoven; 18: Denny H. Kalyalya; 19: César Guido Forcier; 20: Juan José Bravo; 21: Sara Aviel (代理); 22: Hervé de Villeroché; 23: Frank Heemskerck; 24: Jörg Frieden; 25: Sundaran Annamalai

小林いずみMIGA長官からのメッセージ (2008～2013年)

世界経済が転機を迎えている兆しが見られます。近年に見た実質リスクが後退し、情勢の激しい変化が収まりつつあります。高所得国の2013年の経済成長は依然、1.2%程度に過ぎませんが、途上国では5.1%の伸びが見込まれています。



この比較的高い成長率を受け、途上国は海外投資家の関心を引き寄せ続けています。投資家が一段と困難な環境で見返りを求めるようになる中、MIGAのリスク緩和商品に対する需要が高まりを見せているのは、そうした理由に一部起因しています。その中で、今年、創立25周年を迎えたMIGAは、新規保証総額28億ドルという高い業績を前年に続いて達成しました。

途上国への対外直接投資の呼び水になるというMIGAのマンデートは、極度の貧困を撲滅し、繁栄を全員で分かち合うという世銀グループの全体的使命の一環としてその重要性をますます高めています。民間セクターが開発支援で重要な役割を演ずることは私どもも認識しています。MIGAの課題は、民間セクターに価値をもたらす適切な投資を促進することであり、しかも開発の恩恵が受入国で末永く続くようにするには持続可能なものであることが必要です。本報告書には、新規保証業務をはじめ、すでに世界中の人々の生活向上に貢献している既存プロジェクトの開発成果を含め、本年度に達成した前向きな結果が要約されています。

各国が民間の資金や投資を誘致するための新たな方策を模索する中で、私は、MIGAがサブサハラ・アフリカや中東・北アフリカへの支援を拡大するなど、事業開拓に引き続き大きな努力を注いでいる点を指摘したいと思います。アジアにおける業務拡大と欧州での事務所の増強は、前年に続いてよい実績を上げることに役立ちました。さらにMIGAは、国際開発協会（IDA）の融資適格国、紛争の影響下にある脆弱な環境、複合プロジェクト、そして「南・南」投資という戦略的重点分野に的を絞った投資支援を続けて行っています。MIGAが支援したプロジェクトの4分の3以上は、これらの分野のうち少なくとも1つに取り組んでおり、新規保証総額の82%を占めています。

今年は保証業務の多様化が引き続き堅調に進みました。地域別にみると、サブサハラ・アフリカ向けプロジェクトが新規保証額の54%という最大の割合を占めました。これは前年度の24%の2倍以上、2011年度の12%の4倍以上に当たります。セクターの多様化においては、インフラと資源採掘産業での複合プロジェクトが力強い伸びを示し、2012年度に新規保証額の60%を占めていたものが本年度は69%に増大しました。こうした手堅い業務結果の

背景には、これらの多くのプロジェクトが状況を一変させる画期的な特徴を備えていたことが挙げられます。それらは、MIGAの加盟途上国に電力、運輸、より効率的な技術をもたらしたほか、投資を最も必要としていた紛争の影響下にある脆弱国にとっても特に重要でした。

MIGAが支援したプロジェクトの影響をみると、これらのプロジェクトは、インフラ、農産物ビジネス、製造など開発成果を幅広く達成できるセクターに民間資金を動員することで、民間セクターが貧困緩和に大きな役割を果たせることを再度示しています。民間セクターがぜひとも必要とされる投資を行う中、受入国の政府は、雇用を創出し成長を促進する一段と生産的な経済活動を進めるための基盤作りを行って、民間セクター投資を補完することができます。加えて、こうした投資は、周辺のコミュニティの経済的・社会的持続可能性に寄与するうえでも重要な役割を果たします。

MIGAはまた、各産業の業務慣行や開発ソリューションに関する知識を共有するため、新旧の外部パートナーと接触しました。その例として、グローバルな政治的リスク管理に関する会議の開催、上級幹部を招いたアウトリーチ活動、MIGAが支援したプロジェクトの視察などが含まれます。その一環として私は、紛争と脆弱な状況にさらされたイラクとパレスチナ自治区を訪問しました。MIGAはまた、ミャンマーへの協力再開という世銀グループの草分け的な任務に参画しました。今後、世銀との協力により、エネルギー・インフラ開発などの改革を通じて貧困削減と成長促進に貢献できると期待されます。

本年度、MIGAは、世銀グループの機関全体との連携を強め、戦略的重点分野での協動的取り組みを強化する方策について検討しました。特に「IFC/MIGA事業開拓パート

ナーシップ」は力強いビジネスモデルへと発展し、クライアントに最適なソリューションを提供する傍ら、共同事業開拓や知識共有を促進することにも役立ちました。

MIGA内部では、引き続き情報技術（IT）システムの強化を重点的に進め、期待通りのニーズに応え、柔軟性向上とクライアントへの迅速な対応のためのプロセス合理化を進めました。さらに、プロとしての精神に徹した、多様な背景を持つ有能な職員の採用に引き続き力を入れました。今年、「MIGAプロフェッショナルズ・プログラム」の下で新たに4名の職員を迎えました。

私のMIGA長官としての任期は本年度をもって満了します。この重要な機関の業務を推進するにあたり理事会や他のパートナー、クライアントの皆様からいただいたご指導やご支援に感謝の意を表します。私が退陣した後も、MIGAは、成長促進と人々の生活向上に資する投資の促進というマンデートを全うできる良好な位置づけにあると確信しております。また優れたリーダーシップで世銀グループを牽引しておられるジム・ヨン・キム総裁にも謝意を表します。そして特に、私の任期を通じ、加盟途上国でMIGAの使命を貫くために専門家として意欲的に活躍されたMIGAの運営陣と職員の方々に心からお礼を申し上げます。皆さんと一緒に仕事できたことを光栄に思います。



小林いずみ
2013年6月30日

本田桂子MIGA長官からのメッセージ

MIGAの今年力強い業績をまとめた2013年度の
年次報告書をここに提出できますことを喜ばしく
思います。

この時期に、世銀グループに加わり、極度の貧困の撲滅
と繁栄の共有促進という崇高な目的に取り組むことに大
きな興奮を覚えます。

MIGAは、この目標の達成の助力となるソリューションを
提供すべくクライアントや開発パートナーと全力をあげて
協力していく所存です。MIGAのリスク緩和手段は、画期
的なインフラ・プロジェクトの実現、雇用を生み出す企業
の育成、そして金融へのアクセス確保のために資金を動
員する際に不可欠な役割を担うことができます。

この目標の達成に向け、理事会、パートナー、職員の皆様
と共に働くことを心待ちにしております。また、この重要
な業務に貢献できますことを光栄に思います。

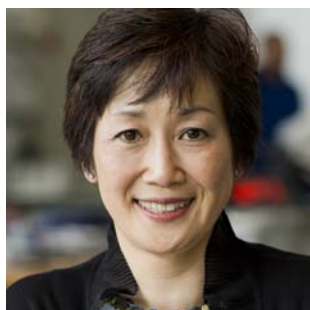


A handwritten signature in black ink, which appears to be 'Kaori Honda' written in a cursive style.

本田桂子
2013年7月15日

MIGAの
運営チーム

小林いずみ
MIGA長官



MICHEL WORMSER
副総裁兼最高業務責任者



ANA-MITA BETANCOURT
取締役兼法務顧問



KEVIN W. LU
東アジア・大洋州担当取締役



EDITH P. QUINTRELL
業務担当取締役



LAKSHMI SHYAM-SUNDER
最高財務責任者兼財務・
リスク管理担当取締役



RAVI VISH
チーフエコノミスト兼経済・
持続可能性担当取締役



MARCUS S. D. WILLIAMS
戦略・コミュニケーションズ・
パートナーシップ担当主任

開発に与えた影響



世界の経済活動が緩やかに回復している兆しが見られます。これらの兆しは、低金利、世界的な流動性向上、国際金融情勢の改善、世界貿易の成長加速化、内需の増大に支えられています。

世界経済環境に関する世銀の2013年の見通しは、比較的弱い2.2%の世界成長を予想しています。その後、2014年と2015年にはそれぞれ3.0%と3.3%へと徐々に伸びる見込みです。ここで重要なのは、世銀によると、世界経済が起伏の少ない押しなべて安定した時期へと移行しつつあると見られることです。



高所得国では急性なリスクが低下していますが、経済調整が進む中で穏やかな下振れリスクが尾を引いています。今後数年間は、ゆっくりと成長の足取りが早まるものと予想されます。一方、先進国が徐々に回復する中、世界成長は主に途上国経済が牽引しています。ただし途上国の成長も前年に比べると減速してきます。

対外直接投資の動向

こうしたやや脆弱な世界環境を受け、途上国への対外直接投資（FDI）は、2012年に推定4.5%低下し、6,700億ドルに留まりました。しかし、2013年には持ち直し、途上国へのFDI流入額は7,190億ドルに上るものと予測されます。また、2012年の途上国への流入額は、世界のFDI合計の大きな割合を占め、45%に達しました。

特に興味深い点は、途上国からのFDI流出額が、最近の増加傾向を反映し、2012年には推定2,380億ドルという最高記録を達成したことです。この額は2013年には2,750億ドルに達する見込みです。途上国からのFDI流出額の約4分の1は他の途上国に流入しています（「南・南」投資）。欧州や米国の投資家が最近の景気減速やユーロ圏の危機の影響を受ける中、この南・南投資フローは、新たなFDIの供給源として従来型の投資を上回りつつあります。

投資家の機運をみると、比較的高成長の途上国が海外投資家の関心を続けて引き寄せています。MIGAの年次報告書「World Investment and Political Risk 2012（世界の投資と政治的リスク2012）」の作成のために実施された2012年のエコノミスト・インテリジェンス・ユニット（EIU）の調査によると、投資家は途上国の将来が明るいと見ています。事実、調査の回答者の半数以上は、途上国への投資を短期的に増やす意向だと回答しました。

MIGAの役割

多数の投資家や金融機関が途上国市場に参入するようになると、MIGAの非商業的リスク保険はそれらにとって強力なツールとなります。多くの場合、MIGAの保証は、特に高リスクと見られる国々への投資を決断する際によくありがちな「躊躇い」に 대응することができます。実際、MIGAの保証があるかないかで、投資の決断の成否が左右される場合も多々あります。また、クライアントがより良い条件で長期の融資を確保したいとき、MIGAの保証は、当該クライアントの信用を強化するツールとなることが増えています。

MIGAは、経済発展、貧困削減、人々の生活向上という使命を実現するために途上国へのFDI流入を促進しています。その際、世銀グループの担当者と投資家の協力を得て、プロジェクトの当事者全員に恩恵をもたらす、地元コミュニティと円滑な関係を確立できる方法で、プロジェクトの組成に当たります。世銀や国際金融公社（IFC）との協動的取り組みは、例えば、今年始まったウガンダのBujagali水力発電所の建設やコートジボワールのAzito地熱発電所の拡張（ボックス1参照）など、いくつかの大規模な開発プロジェクトで実を結んでいます。さらに世銀グループとの幅広い協動的取り組みでは、MIGAの投資支援が受入国に対する世銀グループの戦略と一致するよう万全を期しています。MIGAはまた、世銀グループの環境・社会基準を活用することにより、クライアントに大きな価値をもたらすだけでなく、保証を行った投資の開発成果にも重大な影響を与えることが多々あります。

今年、MIGAは創立25周年を迎えました（ボックス3参照）。それは、これまでに達成した数々の功業を振り返るよい機会であり、次の25年に臨むうえでの節目だといえます。MIGAは創設以来、世界のあらゆる地域と広範なセクターを網羅にしたプロジェクトに総額300億ドルの投資保証を行ってきました。今後は、以下に掲げるMIGAの戦略的重点分野に合致し、最も大きな影響を与えるプロジェクトを中心に引き続き保証業務を展開していく所存です。

戦略的重点分野

MIGAの業務は4つの戦略的重点分野を中心に進められます。この重点分野の形成に際しては、極度の貧困の撲滅と繁栄の共有促進という世銀グループの使命、MIGA加盟国の開発ニーズ、そしてMIGAの比較優位性に注視し他の保険会社を補完することの必要性も配慮されています。

この中でMIGAが最も重視している分野は世界の最貧国へのFDIの促進です。2013年度にはMIGAの投資保証総額のうち、この分野が74%を占めました。その例として、ウガンダとバングラデシュでの発電プロジェクト、ニカラグアの商用竹農園（ボックス2参照）、マダガスカルとジエールでの関税検査サービス、そしてザンビアでの数件の農産物ビジネス向け投資といった支援が含まれます。

紛争の影響下にある脆弱国という戦略的重点分野は、長年にわたる混乱の後、安定を取り戻す際のカギを握る転換期に、MIGAがこれらの国々の復興作業で重要な役割を果たすことを主軸としています。この分野で指摘すべき点は、他の保険会社が対象としないプロジェクトに対してMIGAが保険引受を行える能力があることです。コートジボワールでの3件の変革的なプロジェクト（後述の項目参照）では、戦火が下火となった直後に、MIGAが民間セクター開発の呼び水となるための準備態勢を整えていたことが分かります。今年はまだ、ヨルダン川西岸・ガザ地区の製造プロジェクトへの支援が、この重点分野に対するMIGAの意気込みを体現しました。紛争の影響下にある脆弱国・領土でのプロジェクトは、本年度のMIGAの新規保証額の41%を占めました。

MIGAは本年度、この重点分野での支援をさらに深化させるための「紛争の影響下にある脆弱国ファシリティ」の設立で理事会の承認を取り付けました。このファシリティは、困難な状況下での投資プロジェクトに保険をかけるため、MIGAの保証に加え、最初の損失層に対しドナー資金と保証の両方を提供します。同ファシリティは、このイニシアティブへの拠出を約束したカナダ政府とスウェーデン政府との共同で6月に立ち上げられました。また、このファシリティを支援するため、他のドナーとの間で拠出可能性が検討されました。

MIGAが独自の競争優位性を発揮できるもう一つの重点分野は複合プロジェクトです。今年、コートジボワールで石油・ガスおよび発電向け投資に保証を行ったほか、アンゴラの発電プロジェクトも支援しました。こうした複合プロジェクトは、当該国に変革的な影響を与えることが多く、世銀グループ内の数か所の部局を交えることがしだいに増えています。そのような場合、MIGAの保証は、IFCからの資金供与や、世銀の貸付と保証手段を補完することができ、複合プロジェクトの実現に向け各種の商品を幅広く提供することが可能になります。複合プロジェクトへの支援は、本年度のMIGAの新規保証額の69%を占めました。



ボックス1 – コートジボワールへの投資誘引

西アフリカの国、コートジボワールは、インフラ再建を積極的に進め、域内の経済大国としてのかつての名声を取り戻そうとしています。同国がこの意欲的な目標を達成できるよう、MIGAは、多額の民間セクター投資を動員する際に重要な役割を担っています。大規模で画期的なインフラ・プロジェクト3件を支援するため、MIGAの投資保証は、同国との協働により、20億ドル以上の対外直接投資を誘引しています。

2012年度には、MIGAはアンリ・コナン・ベディエ有料橋梁の建設に対して投資保証を提供しました。この官民パートナーシップは15年以上に及ぶ内戦で中断されていただけに、今回の再開は同国にとって重要な突破口となりました。この橋の建設は現在順調に進んでおり、2014年12月に開通する予定です。100トンに上るコンクリートの支柱を含め、この橋を構成する要素はすべて国内で生産されているほか、いわば工場の役割を果たす建設現場ではピーク時に800人の労働者が雇用されます。

また2013年度には、増大する同国のエネルギー需要を満たすためMIGAは2件の投資案件に保証を行いました。同国政府は、今後6年間に発電量を約80%拡大しようとしています。近年の内戦を踏まえると、コートジボワールの電力セクターは域内の基準を上回る堅実な実績を上げており、すでに隣国数か国に電力を輸出しています。2000年に建設が開始されたAzito地熱発電所は、同国の電力需要の3分の1以上を賄っています。この独立系発電事業体は、危機の間、終始電力を供給し続け、場合によっては従業員が発電施設の護衛にあたりました。

国際金融公社 (IFC) の融資と、株式投資を行っているGlobaleq社に対するMIGAの1億1,600万ドルの保証により、同発電所は、現在のシンプルサイクル発電からコンバインドサイクル発電への変換プロジェクトに着手し、現在の290メガワットから約430メガワットへと発電量を増大させる予定です。これにより、同社はガスの使用量を増やさずに発電量を大幅に増やすことが可能になります。

さらに電力サプライチェーンの川上では、MIGAは、Azito発電所を含め、コートジボワールの各地の発電所に乾性天然ガスを直接供給するオフショア・ガス生産施設を支援しています。ギニア湾にあるFoxtrot International社の石油・ガス生産施設では毎日、同国の生産量の2分の1以上に相当する1億1,000万~1億2,000万立方フィート (311万5,000~339万8,000立方メートル) の天然ガスが生産されています。同社は現在、6つのガス田を運営しており、MIGAの保証を受けた新規投資により、2014年末までに合計7つの新ガス田の掘削が可能になります。同社はまた、Marlinガス田で新たなプラットフォームを建設する予定で、2015年に生産が開始される見込みです。このプロジェクトはさらに、同国政府と投資家の間で交わされた「ガス供給購買契約」の下で支払いを保証する、6,000万ドルの部分的リスク保証をIDAから受けています。

こうして合計20億ドルを超える新規投資を誘引することで、家庭に灯りがともり、通勤・通学時間が短縮され、雇用が生み出され、コミュニティ開発プログラムを通して無数の恩恵がもたらされることでしょう。



南・南投資がしだいにFDIの重要な供給源となる中、MIGAは、この投資をもう一つの戦略的重点分野として支援し続けています。今年、MIGAの投資保証総額の13%が途上国から別の途上国へのFDIに関わるものでした。MIGAの保証を受けた南・南投資の例としては、リビアの製造工場やケニアの発電所が挙げられます。

全体的にみると、戦略的重点分野のプロジェクトは2013年度の新規保証額の82%を占めました。

地域別視野に立つと、MIGAは今年、サブサハラ・アフリカと中東・北アフリカに重点を置きました。

サブサハラ・アフリカは世銀グループにとっての最優先課題であり、MIGAの保証は、この地域の開発に恩恵をもたらすFDIの誘引で重要な役割を担っています。エネルギーとインフラ分野では、公的資金源の乏しさも手伝って、不足が生じており、MIGAはそれを補うために大きな力を注いでいます。世銀の試算によると、アフリカのインフラ不足に対応するには年間380億ドルが必要だと見られています。民間資金へのアクセスを促進し、官民パートナーシップのような革新的な構造を用いることで、MIGAは、アフリカの多くの人々に影響を与えるプロジェクトに投資を仕向けることに役立ちました。今年、この地域でのプロジェクトはMIGAの新規保証額の54%を占めました。

本年度はまた、中東・北アフリカ (MENA) での取り組みにも続けて注力しました。この地域では、多くの国々が従来、欧州からの投資に依存してきましたが、その欧州が自らの財政問題に取り組んでいるため、最近の不透明な情勢がさらに悪化しています。その結果、雇用や機会の創出に必要な資金はかつてなく多額に上っています。MIGAにとってはこの時期こそ民間セクターが対応できない不足を補うべき重要なときだといえます。2011年度末、MIGAは、この地域へのFDIを維持・促進するために保険引受用の資金として10億ドルを動員すると約束しました。それ以来、同地域で6億580万ドルの投資保証を行っており、この目標に向けて着実な成果を上げています。今年、ヨルダン川西岸・ガザ地区投資保証信託基金を通じた2件の製造プロジェクトを含め、同地域で合計5件のプロジェクトを支援しました。これらのプロジェクトは、この困難な地域に雇用とビジネス活動をもたらすでしょう。

カーボン・フットプリントの削減

各国は、再生可能なエネルギーと省エネ、二酸化炭素排出量の少ない都市交通に多額の資金を投じ、専門知識

の開拓に努めています。こうした各国の努力の助けになる解決策を提供するには民間セクターは不可欠な存在です。しかし多くの市場では、当初のコストが高く、政治的リスクが大きいと見られ、しばしば投資家の決断を揺るがしています。

ケニアの地熱発電から中国の廃棄物発電、さらにアルバニア、アンゴラ、パキスタンでの水力発電まで、MIGAは、世界のあらゆる地域で持続可能な発電手段に投資保証を提供することでエネルギー源の変革に支援を行っています。さらに最近では、パナマとトルコの大量輸送プロジェクトも支援しました。

本年度はまた、シンプルサイクル発電からコンバインドサイクル発電への変換に携わるコートジボワールとバングラデシュでのプロジェクトに加え、ニカラグアの風力エネルギー・プロジェクトへの投資保証に調印しました。前者のプロジェクトは、ガスの使用量を増やさずに発電量を拡大できるため、両国は二酸化炭素の年間排出量を大幅に削減できます。

環境・社会基準

健全な環境パフォーマンス、持続可能な自然資源管理、社会的責任は、投資を成功に導き、受入国の開発に資するうえで決定的な要因となります。MIGAは、保証を行ったすべての投資に対して、一連の包括的なパフォーマンス基準を適用しており、環境・社会基準の担当者は、MIGAの支援プロジェクトの潜在的な悪影響について評価し、それを極力抑え緩和する方策をクライアントに伝えています。また世銀グループ内で民間セクターを支援する部局との間で調和化を図るため、IFCが行った同様の審査を基にMIGAの方針とパフォーマンス基準の更新を進めています。

日本政府の資金援助を受け、MIGAが管理する「アフリカのための環境・社会チャレンジ基金」は引き続き、アフリカへの対外投資家に技術支援を提供するメカニズムとなっています。この基金は、MIGAの保証をすでに受けているか、現在考慮されつつある投資家を対象にケースごとに受け付けています。この基金を通して、投資家は、プロジェクトが環境・社会パフォーマンスの向上に貢献するよう、MIGAや外部コンサルタントから専門的助言を受けることができます。本年度、同基金は、エチオピアで2件のMIGAプロジェクトを支援しました。その一つはafricaJUICEによるフェアトレード認証を受けた農業生産者組合の育成と、他方はNational Cement社による強固な環境・社会管理システムの確立です。



ボックス2 – 環境にやさしいビジネス： ニカラグアでのEcoPLANET BAMBOO社 の活動

森林伐採は、二酸化炭素排出量の17%以上を占め、温室効果ガスの3番目の多量発生源となっています。木材に代わる持続可能な代替品があれば、二酸化炭素の排出量削減が容易になるはずです。

EcoPlanet Bamboo社は、MIGAの支援を受け、従来、木材を利用してきた産業に、相当量の代替原料を安定的に供給しようとしています。MIGAから2,700万ドルの保証を受け、同社の投資は、ニカラグアの荒廃した土地を購入し、竹繊維の輸出・販売を目的とする商用竹農園へと変換するために利用されます。これに伴い、森林管理評議会（FSC）の認証済み竹繊維の生産・販売に向けた前処理施設の建設が予定されています。竹繊維の販売ターゲットは、米国をはじめ、建設用・家具用ラミネート板や複合材、パルプ・紙生産、再生可能エネルギー生産などに携わる多国籍木材生産会社です。

MIGAの保証は同社にとって決定的なものでした。「要するに、MIGAの保証のおかげで、ニカラグアへの投資を倍増することができました」と、同社のトロイ・ワイズマン最高経営責任者（CEO）は述べています。

この投資は開発に非常に大きな影響を与えています。同国で最も貧し

い地域に属する遠隔の南大西洋自治地域に雇用を生み出しているのです。この比較的最近のプロジェクトが地元経済にもたらしている成果は、雇用創出、土地改善、労働者の技能向上など、すでに目に見えています。ニカラグアにおける同社の当初の投資は、高失業率の地域に300人以上の雇用を生み、4,800エーカー（約1,900ヘクタール）の荒廃した土地を竹農園に変え、その結果、生物多様性に貢献し、周囲の森林に対する圧力を軽減したのです。EcoPlanet Bamboo社は、地元のサプライヤーを利用し、間接的な雇用を生み出すことにも腐心しています。同社の基本理念は、女性を重要な労働力とみなし、地元社会への貢献を通じて良好な関係を築き、教育を支援し、人々の生計を改善することにあります。

さらに昨年11月、同社は、認定炭素基準（VCS）の下でニカラグアの竹農園に対し初めての炭素認証を受けた企業となり、林業と気候変動の両分野で大きな節目を迎えました。従来、カーボン・ファイナンスの恩恵に預かってこなかった国であり分野であることを踏まえると、この功績は、同社が、現地にも、地域的にも、また国際的にも、環境・社会面で確固たる影響を与えたといえるでしょう。



開発の有効性

MIGAは、保険引受を行った投資の開発結果を的確に把握することにより、業務の焦点をさらに鋭化し、より高い次元で開発効果を達成することができます。それにより、開発効果の強化と測定を引き続き行って、過去のプロジェクトから引き出した貴重な教訓を現行業務に応用することが可能になります。

本年度は、MIGAが保険引受を行ったプロジェクトの開発成果を測定・追跡する「開発効果指標システム (DEIS)」の立ち上げから3年目を迎えます。このシステムを通じて、MIGAは、支援を受けた投資、直接創出された雇用、研修費、現地調達財、地域社会への投資という一連の指標をどのプロジェクトにもおしなべて測定しています。さらに、セクター別指標の測定も行っています。その結果、2013年度には、発行した保証額のほぼ2倍にあたる54億ドルの投資を誘引しました。

またDEISには、保証契約の締結から3年が経過した時点でプロジェクトの実際の実績を測定するプロセスが盛り込まれています。来年度を皮切りに、2011年度に締結された一連の実績中保証契約の測定データが明らかになり始めます。

MIGAは開発効果の測定を引き続き改善しています。これに伴い、他の開発金融機関と連携して、指標の標準化に努めています。

開発効果を正確に把握するためのもう一つの有効なツールとしてMIGAの自己評価プログラムが挙げられます。この評価には、プロジェクトの結果を、事業パフォーマンス、経済的持続可能性、民間セクター開発に与えた影響、開発の成果、環境・社会面での成果という基準に照らして詳細にモニターすることなどが含まれます。こうした評価は、世銀の独立評価グループ (IEG) による評価 (本書の別項目を参照) とMIGA担当者によるプロジェクトの継続的監視に加えて行われるものです。MIGAは今年、6件のプロジェクトに対する自己評価を実施しました。

IEGは今年、途上国における「世銀グループによるイノベーションと起業家への支援」についての評価を行いました。その報告書によると、イノベーションは経済発展に不可欠だけでなく、インクルージョンや持続可能性などに関連した主な開発問題に取り組む上でその重要性を増していると強調しています。IEGは、(技術移転、技術普及、新技術の買収を通じた) 企業の技術向上に対するMIGAの支援が、多くの場合、イノベーション促進、技能育成、民間セクター発展に貢献したと述べています。

同報告書はまた、MIGAの投資保証が紛争後の環境でのFDI活性化に役立ち、途上国から途上国への(南・南)技術移転や知識交換を支援したと言及しています。

MIGAと企業倫理

最近のある推定によると、不正や汚職により年間200~400億ドルもの資金が途上国から吸い上げられていると言われていています。不正・汚職は、多くの国で事業の運営コストを高め、投資環境をむしろ悪くし、法の支配力を弱めます。この不正・汚職が与える影響を認識し、今では、各種の協定や、法律、政策が施行され、MIGAのクライアント、受入国、投資国など世界中の事業活動を司るようになりました。

高い企業倫理基準を適用することは、有益で持続可能なFDIを期する際のMIGAの重要な方策の一つとなっています。MIGAが2011年に策定した倫理戦略は、保険引受を行った投資の開発成果を保護するのに役立っています。2012年には、贈賄、不正、詐欺、共謀、マネーロンダリングなど不道德な行動や違法行為にかかる潜在的リスクを特定するため、引受プロセスの一環として正式な枠組みが設定されました。MIGAの倫理に関するデューデリジェンスでは、取引の詳細への配慮だけでなく、プロジェクトの構造、ライセンス契約や入札の過程、さらにプロジェクトの関係企業やプロジェクト参加者が非倫理的または不名誉な行動を引き起こしかねない危険性についての分析も常に行われます。

MIGAの倫理に関するデューデリジェンス手続きは、支援の対象となったプロジェクトで不正が生じる可能性を低減するのに役立ちます。加えて、MIGAの保証契約書の中には不正防止条項が組み込まれています。MIGAは、クライアントやパートナーが当該国の法を守り、貿易・調達上の規則を遵守し、世銀グループの不正防止基準に準拠するものと期待しています。

2012年に新規に開発されたモバイル・アプリケーションには、MIGAが支援するプロジェクトの情報が搭載されており、ユーザーは詐欺や不正の疑いのあるプロジェクトを匿名で世銀グループの倫理局に通報できるようになっています。また、このモバイル・アプリは国別、活動の種類別、キーワード別にプロジェクトを特定したり、画像を送ったりすることが可能です。加えて、世銀グループとの取引から締め出された企業や個人のリストにもアクセスできます。

25
years

ボックス3 – MIGAの歴史



政治的リスク保証を提供する国際機関の設立案は、MIGAが発足するより遥かに前の1948年ごろから浮上していましたが、実際にこの案が具体化し始めたのは1985年9月以降のことです。当時、世銀の総務会はMIGAの中心的使命をつづった設立協定を支持することで、新たな投資保証機関の設立プロセスに着手したのです。同協定にはMIGAの使命とは「公正かつ堅固な基準に基づいて対外投資を扱いつつ、途上国の開発ニーズ、政策、目的と合致した状況下で、生産的な目的のために、途上国に対する資本と技術の流れを強化すること」と明記されています。

1988年4月12日、MIGAは、国際会議において世銀グループの4番目の機関として設立され、法的には別途の、財政的には独立した機関として業務を開始したのです。MIGAへの加盟は国際復興開発銀行（IBRD）の全加盟国に開放されており、設立時の資本株式は10億ドルでした。MIGAの原

加盟国は、バーレーン、バングラデシュ、バルバドス、カナダ、チリ、キプロス、デンマーク、エクアドル、エジプト、ドイツ、グレナダ、インドネシア、ジャマイカ、日本、ヨルダン、韓国、クウェート、レソト、マラウイ、オランダ、ナイジェリア、パキスタン、サモア、サウジアラビア、セネガル、スウェーデン、スイス、イギリス、米国の29か国です。

MIGAは、途上国における非商業的リスクに対し投資保険を提供する民間および公的事業体を補完するために設立されました。MIGAの多国間機関としての性質や、先進国と途上国から合同で支持を受けていることは、クロスボーダーの投資家の信任を大幅に高めるとみられたのです。

今日、MIGAの使命は簡潔明瞭です。それは、途上国への対外直接投資の促進を通じて、経済成長、貧困削減、人々の生活向上を図ることにあります。

MIGA 加盟国 (179か国)

先進国 (25か国)

オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、チェコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイスランド、アイルランド、イタリア、日本、ルクセンブルグ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポルトガル、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、米国

途上国 (154か国)

アジア・大洋州

アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、中国、フィジー、インド、インドネシア、韓国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、モルディブ、ミクロネシア連邦、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パプアニューギニア、フィリピン、サモア、シンガポール、ソロモン諸島、スリランカ、タイ、東ティモール、バヌアツ、ベトナム

ヨーロッパ・中央アジア

アルバニア、アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、キプロス、エストニア、グルジア、ハンガリー、カザフスタン、コソボ、キルギス共和国、ラトビア、リトアニア、マケドニア (旧ユーゴスラビア共和国)、マルタ、モルドバ、モンテネグロ、ポーランド、ルーマニア、ロシア連邦、セルビア、スロバキア共和国、タジキスタン、トルコ、トルクメニスタン、ウクライナ、ウズベキスタン

ラテンアメリカ・カリブ海

アンティグア・バーブーダ、アルゼンチン、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グレナダ、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パラグアイ、パナマ、ペルー、セントキッツ・ネイヴィス、セントルシア、セントヴィンセント・グレナディン、スリナム、トリニダード・トバゴ、ウルグアイ、ベネズエラ

中東・北アフリカ

アルジェリア、バーレーン、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、シリア・アラブ共和国、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン

サブサハラ・アフリカ

アンゴラ、ベニン、ボツワナ、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、カーボヴェルデ、中央アフリカ共和国、チャド、コモロ、コンゴ (人民共和国)、コンゴ (共和国)、コートジボワール、赤道ギニア、エリトリア、エチオピア、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モリタニア、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、ルワンダ、サントメプリンシペ、セネガル、セーシェル、シエラレオネ、南アフリカ、南スーダン、スーダン、スワジランド、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

加盟要件の適合過程にある国

ブータン、ミャンマー

連絡先

上級幹部

本田桂子 長官	khonda@worldbank.org
Michel Wormser 副総裁兼最高業務責任者	mwormser@worldbank.org
Ana-Mita Betancourt 取締役兼法務顧問	abetancourt@worldbank.org
Kevin W. Lu 地域担当取締役 — アジア・大洋州	klu@worldbank.org
Edith P. Quintrell 業務担当取締役	equintrell@worldbank.org
Lakshmi Shyam-Sunder 最高財務責任者兼財務・リスク管理担当取締役	lshyam-sunder@worldbank.org
Ravi Vish チーフエコノミスト兼経済・持続可能性担当取締役	rvish@worldbank.org
Marcus S.D. Williams 戦略・コミュニケーションズ・パートナーシップ担当主任	mwilliams5@worldbank.org

地域拠点

アジア・大洋州 — Kevin W. Lu 地域担当取締役	klu@worldbank.org
ヨーロッパ・中東・アフリカ — Olivier Lambert 地域担当マネージャー	olambert@worldbank.org

保険引受部門

Antonio Barbalho エネルギー・資源採掘産業	abarbalho@worldbank.org
Nabil Fawaz 農産物ビジネス・製造・サービス	nfawaz@worldbank.org
Olga Sclovscaia 金融・通信	osclovscaia@worldbank.org
Margaret Walsh インフラ	mwalsh@worldbank.org

再保険部門

Marc Roex	mroex@worldbank.org
-----------	---------------------

商品に関する問合せ

migainquiry@worldbank.org

マスコミに対する窓口

Mallory Saleson	msaleson@worldbank.org
-----------------	------------------------

WWW.MIGA.ORG

Multilateral Investment Guarantee Agency

World Bank Group
1818 H Street, NW
Washington, DC 20433 USA

t. 202.458.2538
f. 202.522.0316

ISBN 978-1-4648-0059-7